

タイトル：

『一人ひとりの個性を尊重した多様なサービスの提供
～介護現場の生産性向上の取り組みから生み出したもの～

キーワード ※3つ記入。

効率化	法人名	社会福祉法人 中標津朋友会
ICT化	施設種別	特養
利用者処遇	施設名	広域ユニット型特別養護老人ホーム 中標津りんどう園

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	① 犬伏 善則	施設長	
	② 佐藤 麻利子	管理課長	
	③ 小島 巧	生活相談員 (相談主任)	
	④ 遠藤 汐梨	介護職員	
	⑤		

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人 中標津朋友会	経営主体	社会福祉法人 中標津朋友会
開設年月日	平成25年4月1日	所在市町村	中標津町
市町村人口	22,343 人	65歳以上人口 (高齢化率)	6,322人 (高齢化率 28.3%)
利用者定員数	40 人	利用者平均年齢	86 歳
職員数	30 人	職員数内訳	介護職 27名 看護職 2名
併設施設・事業	特別養護老人ホーム (多床室 50床)、短期入所生活介護 (10床) 通所介護、居宅介護支援事業所		
施設のサービスの概要	「今までの生活」を継続していく環境作りと「その人らしさ」を大切にしたいサービスを目指します。 (施設概要：介護老人福祉施設 (ユニット型) ユニット10名×4ユニット)		

発表の概要

①取り組んだ課題 生産労働人口の急激な減少等により働き手の確保、介護員の離職・定着対策など、課題が多い現状にありますが利用者の方のニーズに沿ったケアをして実現できないか、日々、思考錯誤しております。□ そのような中、北海道事業「介護事業所生産性向上推進モデル事業」の通知があり応募。そして採択されました。これをチャンスとして捉え、介護の生産性の向上 (業務改善) に取り組みました。□	③活動の成果と評価 ・時間を生み出したことで利用者の方と関わる時間が増えました。□ ・生み出した時間を利用者一人ひとりのニーズに合わせた取り組みへと繋げることができました。 ・その他、介護ロボットを導入したことも含め、直接処遇職員の腰痛対策等の負担軽減にも繋がり、働きやすさの向上・離職対策にも良い影響が出ています。
②具体的な取り組み 介護サービス事業 (施設サービス分) における「生産性向上に資するガイドライン」を参考にしました。令和2年度からユニットリーダー職が中心となって「介護の生産性の向上の取り組み (業務改善)」に着手。補助事業は令和3年度春で終了したものの、その後も生み出した時間を利用者処遇向上に繋げるよう、貴重な時間を有効活用することを意識しながら、更なる「生活の質の向上」と「働きやすさ」を目指して取り組んでおります。 □	④今後の課題 ・新たな時間の創出はできているものの、利用者の方への大きな成果までにはまだまであると感じております。(利用者一人ひとりの満足度 (質) を更に高める取り組みが重要と捉えています) □ ・また現状に「ムリはないか」「ムダはないか」「ムラはないか」の「3M」は常に意識しながら、職員間で議論のうえ、試行錯誤・軌道修正しながら、継続した取り組みをしていきたい。
	⑤参考資料など (厚労省作成) 介護サービス事業 (施設サービス分) における生産性向上に資するガイドライン「より良い職場・サービスのために今日からできること (業務改善の手引き)」